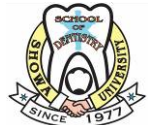




発行責任者: 歯学部長 榎 宏太郎, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



第10回昭和大学学祖祭が開催されました

歯学部長 榎 宏太郎

去る5月31日、上條記念館におきまして、第10回学祖祭が挙行されました。

今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年の上條家の墓前報告は中止され、上條家の皆様と法人役員など100名の出席で開催されました。

この学祖祭は、昭和大学の毎年の活動を、開学の祖である上條秀介博士にご報告するものです。改めて報告することにより、大学法人の執行役員はじめ教職員が本学に与えられたミッションとその遂行を再確認する大きな機会となっております。

午後1時から田中 大介(保健管理センター所長)による『平均律クラヴィーア曲集第1巻第1番プレリュード』の素晴らしいピアノ演奏で開式され、上條秀介博士への黙祷を捧げた後に、久光 正学長より本学の医療人を育てるという大きな目標の意義と、この伝統を守りさらなる発展を目指す姿勢が述べられました。

続いて、上條奨学賞、上條最優秀論文賞、学術研究奨励研究者、海外留学諸活動、および学業成績優秀賞の表彰が行われました。

その後、小口勝司理事長から「令和元年度事業報告ならびに事業計画について」のご説明があり、参加者一同による昭和大学宣言と校歌斉唱にて閉会されました。



上條秀介博士の開学の理由として、関東大震災の際に出来るだけ多くの市民を救いたいと願われたことが伝えられております。現在のコロナ禍の中においても、大学病院における素晴らしい治療成績やオール昭和のPCR検査体制などの本学の成果を見ていると、この上條博士の願いは正しく受け継がれていると感じます。そして、つらい時にも他の人のために進み続けるという思想は、時代を越えて生き続けるものであることを改めて認識することが出来ました。

歯学部の皆様におかれても、今までには無かったWEB講義を作り、短縮された授業や実習のリスケジュールに追われ、暑さと戦いながらの感染防御体制での診療再開等々、様々なご苦労をおかけしております。加えて、鬱陶しい梅雨にも入り、気分的にも滅入りがちかもしれません。しかし、心の中には、あのブルーインパルスが飛んでくれた晴れ渡った青空を思い浮かべ、一歩ずつ前へ進みましょう。もうすぐ、青空は戻ってきます。



今年度歯学部だより

広報委員長 中村雅典

昨年末から始まった新型コロナウイルス感染症の広がりにより、様々な社会活動が停止されてきました。その結果、大学教育においても、学生の登校禁止、自宅待機要請が発動されました。この間、大学では教育並びに臨床現場に対する対応、また、学外においても各専門学会の総会や学術集会の中止が重なり、歯学部だよりとして広く皆様に発信できる内容が極めて少なかったのが現状です。

5月末に緊急事態宣言が解除され、6月から学生が登校しての対面教育が開始となりました。そこで、今月号では、これからの学生教育の方向性、学生生活、並びに大学院歯学研究科の運営に関して、ご担当の先生方に執筆していただきました。



式典の様子は YouTube で配信され、規模縮小により学祖祭に出席できなかった本学職員等も視聴しました。

これからの学部教育

教育委員長 飯島 毅彦

現在、コロナ禍により国内外の教育機関の多くは遠隔授業を行っています。対面授業を始めているところも様々な制限があり、これまでとは異なった形態での授業をせざるを得なくなっています。特に遠隔授業を応用することが困難な臨床実習の実施形態には各教育機関は頭を悩ませているところです。現在(2020年6月9日)の時点では、教室にいる人数を半数に絞り、基礎実習、6年生の総括講義を開始しています。臨床実習が中心の5年生は全員PCR検査を行い、昨日全員の陰性が確認され、来週からやっと臨床実習が開始されることになりました。それでも臨床の現場では人数が制限されています。

かつて、天津医科大学を訪問した際に中国以外の国の医療スタッフの養成のためのシミュレーション教育専門の学校を視察しました。ここには患者はいませんが、診療科を想定した実習室が連なっており、シミュレーション人形が横たわっていました。ここでの臨床実習の習得年限を終えたものは母国ではそれぞれの医療職の免許をもらえるとのことでした。この事情と現在のわれわれの事情は異なりますが、すでに臨床実習の参加患者の確保が難しい現代ではテクノロジーを駆使した臨床教育の充実が必要であるかもしれません。

WEB講義は4月から開始しましたが、思いのほか各講座での受け入れもよく、これはご担当いただいた総合診療歯科長谷川先生、歯科薬理学坂井先生、口腔病理学美島先生らの導入指導のおかげによる大きなことだと思います。学生にとっても分かりやすい、勉強しやすいという評価が多く、今後、対面講義からWEB講義への移行が進むかもしれません。

教える側としては以前よりも学生の評価を意識した授業内容の改善が求められていくことになるでしょう。私が最近懸念しているのは、「何で学校に来ないといけないの?」という学生の質問が来ることです。教育する側もされる側もお互いに楽しみながら向上していくことが期待されます。コロナ禍はピンチですがチャンスに変えられるようにしていきましょう。

これからの大学院歯学研究科運営について

歯学研究科長 高見 正道

今回のコロナ禍をうけ、科学誌 *Nature* には“大学は将来の研究活動に向けた対策を講じなければならない”と書かれていました。まさに歯学研究科も現状を整理し、今後に向けた対策と改革を進めることが必要です。

1) 優れた研究と優れた教育

私は、研究と教育は「表裏一体」と見ていま

す。すなわち、教員ひとり一人が研究者として日夜研鑽を積み、専門領域における第一人者としての地歩を築く。このような研究者が、熱意ある教育者として学生に接すれば、学生の能力と視座は自ずと高まっていくという意味です。これを実現するために、教員の研究に対する意識改革を図りたいと思います。



2) 学位取得条件とカリキュラム

「博士」という学位は国家資格と異なり、そのポリシーと授与条件の多くは大学に委ねられています。よって、博士取得に至るまでの難易度は大学や学部間で差があるのも事実であり、それは大学院生の成長と大学の品格を左右します。私は、大学院における教育理念の原点に立ち返り、学位取得条件やカリキュラムの改変に真摯に向き合うつもりです。

以上、歯学研究科の今後に対する私の意思を述べさせていただきました。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

上條奨学賞(研究業績部門)を受賞しました

歯科薬理学講座 茶谷 昌宏

この度、「メダカを用いた骨代謝研究」という内容で上條奨学賞を受賞いたしました。私は、学生の頃に宇宙と生命の関わりに興味を抱き、メダカを用いた重力と硬組織の関係解明に取り組んで参りました。



前職の東京工業大学では、国際宇宙ステーションでメダカを飼育し、重力が歯の恒常性に関与することを明らかにしました(*Sci Rep 2015, Sci Rep 2016*)。昭和大学に赴任してからは、マルチドクターの学生とともに JAXA(宇宙航空研究開発機構)の装置を利用して過重力をメダカに与え、骨格の形態と重力の関係を解析しました(*Biol Sci Space 2019*)。また大学院生とは、遺伝子組換え技術によりメダカの神経や骨関連細胞などを蛍光標識し、糖質コルチコイドの機能や骨折修復のメカニズムを解明しました(*Biomed Pharmacother 2019, Bone 2020*)。

今後は、何度も歯が生え変わるメダカの特性を生かしながら、私のライフワークである「宇宙医学」にアプローチしていく所存です。末筆ではございますが、薬理科学研究センターの皆様にご心より感謝申し上げます。



上條奨学賞(教育功績部門)を受賞しました

歯科麻酔科学部門 飯島毅彦

5月31日上條記念館において上條奨学賞(教育部門)を受賞いたしました。まさに身に余る光栄です。昭和大学に赴任したのは約8年前ですが、初めの印象は何と教育に熱心な大学だろうと感じました。ワークショップなどFDには理事長先生はじめ学長先生らが必ず参加され講演をされています。新鮮な驚きでした。赴任当初は教育職員の皆さんの教育熱心に圧倒され、どうしたものかと迷いの毎日でした。しだいに歯科医師というプロフェッショナルはこの大学の場合でゼロから育てており、その将来は教育にかかっているのだと思うようになりました。私の教育分野は麻酔という他の歯科の教育科目からは幾分離れたものです。歯科では麻酔は単なる診療科としての麻酔業務を教えるだけでなく、歯科患者の全身評価と医療上の管理方法を教える科目です。ある意味では医科と歯科の橋渡しをする分野であるかもしれません。将来の歯科医師として身につけておかなければならない知識を整理し教えることが求められています。私は賞をいただくような十分な教育成果を上げているわけではありません。しかし、この賞に恥じぬようにもっと学生の教育に努力せよという意味での授与だと認識しております。今後とも各所からのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



るのではないかと考えています。

日々の臨床と研究の両立は想像していたよりずっと大変でしたが、このような栄誉ある助成金に採択いただきましたことは、研究の幅をさらに広げるチャンスを得ただけだけでなく、大きな励みとなりました。この研究の成果を大学に還元できるよう、今後とも日々努力してゆきたいと思っております。



昭和大学学術研究奨励研究者表彰を受けました

口腔腫瘍外科学部門 朝倉 眞莉子

このたびは学術研究奨励賞にご選出頂き、心より御礼申し上げます。このような受賞の機会を頂きましたことは、代田 達夫教授、助教の椋代 義樹先生、大学院生の栗原 舞先生をはじめとする、口腔外科学講座の先生方のご支援、ご助言、ならびに、ご厚情の賜物であると心より感謝しております。

本研究計画では、低酸素条件下における骨細胞のオートファジーおよびアポトーシスによる細胞生存性の制御機構の解明を目指しております。オートファジーは、癌や神経変性性疾患に深く関わると言われていますが、骨代謝性疾患について、特に骨代謝を制御する細胞の細胞生存性との関連性はこれまでの研究において未だ不明な点が多く残されている現状です。本研究計画で、少しでもそれらのことの解明に貢献することが出来ればと考えております。

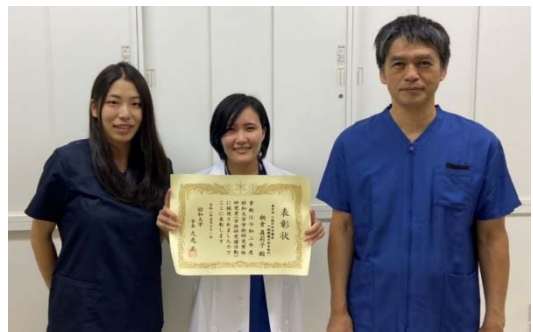
また、この機会を通じて、改めて臨床と共に研究にも十分に臨むことのできる恵まれた環境で過ごさせて頂いていることを実感いたしました。これからも微力ではありますが、口腔医学の発展に貢献して参りたいと思っておりますので、今後とも尚一層のご指導とご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

昭和大学学術研究奨励研究者表彰を受けました

小児成育歯科学講座 五十嵐 悠

この度は、学術研究奨励金に採択いただき心より御礼申し上げます。私は成長期における骨代謝研究を専門とし、特に小児期における骨系統疾患に興味をもち研究を行っております。近年、小児歯科外来に骨系統疾患である骨形成不全症を発症した患者や、ステロイド性骨粗鬆症によりビスホスホネート製剤投与を受けている患児が多く来院しています。これらの骨系統疾患を発症した小児患児においては、顎骨や歯牙の発達異常が認められます。この原因が、疾患によるものなのか投薬の副作用によるものなのか不明であり、外来診療における困難性が高まっています。小児期に発症する骨系統疾患は生涯にわたりQOLを左右するが、成長期という特殊な全身状態での骨代謝解明は不明な点が多くあります。

成長期における安全性や有用性の詳細を明らかにすることで、小児の骨系統疾患への適応拡大が望め



歯周病学会 Young Investigator Award を受賞しました

歯周病学講座 田中(加藤)麻友

この度、令和元年10月25、26日に北九州国際会議場で開催された第62回秋季歯周病学会にて「口腔歯肉上皮由来細胞による接合上皮細胞置換の可視化」という演題で口演発表し、日本歯周病学会 Young Investigator Award を受賞しました。本賞は学術大会発表において優れた研究を発表した若手研究者を表彰することを目的としています。

私が行なった研究は、歯の萌出時に歯原性上皮由来である接合上皮が、徐々に口腔歯肉上皮由来細胞に置換することを可視化し、口腔歯肉上皮由来の接合上皮は歯原性上皮由来の接合上皮とは異なる遺伝子発現プロファイルを示すことを明らかにしました。

大人数が収容できる大ホールでの発表は普段出来ない貴重な経験であり、歯周病学の権威である御高名な先生方からの質疑を受け緊張しましたが、医局の先生方が何度も発表のリハーサルや準備に時間を割いてくださったお陰で自信を持って発表する事が出来ました。

今回の受賞に際しまして、忙しい中ご指導して下さった歯周病学講座の山本松男教授、口腔病理学部門の美島健二教授、田中準一先生、研究チームの先生方をはじめ多くの先生方に心より感謝申し上げます。



編集後記

歯科理工学部門 堀田 康弘

いまだコロナ禍第2波の脅威に晒される中、教育の現場では、WEB講義や少人数制での実習など、従来の教育システムから大変革を余儀なくされています。それに伴い、教員側も様々なコンテンツ作成に忙殺されていることと思います。そんなご多忙の折にもかかわらず、ご寄稿下さいました皆様方に、心から感謝申し上げます。

